

令和3年度第3回

小金井市地下水保全会議会議録

令和3年度第3回小金井市地下水保全会議会議録

- 1 開催日 令和4年2月14日（月）
- 2 時間 午前10時00分から午前11時03分まで
- 3 場所 WEB会議
- 4 議題 (1) 前回会議録について（資料1）
(2) 地下水影響工事に係る基準について（資料2）
- 5 その他
- 6 次回審議会の日程について
- 7 出席者 (1) 委員
会 長 楊 宗興
副会長 山中 勝
委 員 徳永 朋祥
委 員 石原 成幸
委 員 名取 雄太
(2) 事務局員
環境政策課長 山口 晋平
環境係長 岩佐健一郎
環境係専任主査 荻原 博
環境係主事 鳴海 春香
環境係 阪本 晴子
- 8 傍聴者 0名

令和3年度第3回小金井市地下水保全会議会議録

楊会長 定刻になりましたので、これより令和3年度第3回小金井市地下水保全会議を開会いたします。まず始めに事務局から事務連絡と本日の配布資料の確認をお願いします。

岩佐係長 それでは、はじめに事務連絡と配布資料の確認をさせていただきます。

まず事務連絡、ご発言の際のお願いです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今回の会議はWEB会議での開催とさせていただきます。質疑応答等ご発言が聞き取りづらくなる場面も想定されますので、ご発言の際には、ご自身のお名前を先におっしゃった上で、可能な範囲ではっきりとご発言いただきますようお願いいたします。前回に引き続き、同じお願いで大変恐縮ではございますが、円滑な会議の運用及び会議録の作成にご協力よろしくをお願いいたします。

続きまして資料の確認です。次第の下段、＜配布資料＞をご覧ください。本日の会議資料は、資料1及び資料2の2点となり、皆様に郵送させていただいたものと内容の変更はございませんので、お手元にある資料をご参照ください。

以上、お手元の資料に不足がございましたら事務局までお申し付けください。

どうぞよろしくをお願いいたします。 以上です。

楊会長 事務連絡と配付資料の確認が終わりました。何か御質問はございますでしょうか。

特になければ、次第の2、議事に移ります。

次第の2、議事（1）前回会議録についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いします。

岩佐係長 資料1、令和3年度第2回地下水保全会議会議録をお手元に御用意

ください。

前回の会議における御発言につきまして、本資料を事前にお目通しいただきまして御確認いただいていることとと思いますけれども、訂正がある場合は、ページ番号と御発言の委員名及び訂正内容をお知らせいただければと思います。

先日、石原先生のほうからは、5点ほど御自身の御発言内容の修正依頼をいただいておりますので、事務局のほうで修正をさせていただければと思います。

本日、本審議会において御承認いただいた後は、ホームページへの掲載手続を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

以上でございます。

楊会長 説明が終わりました。前回会議における各自の御発言について、本日配付の修正資料のほか、本日、この場で御指摘のある場合は、挙手にて御発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

名取委員 議事録の11ページの中段、私の発言ですが、2段落目、「建物の規模の話は、もともと規則に書いていらっしゃるものが変わるので」とありますが、この「変わるので」のところは、恐らく「かかるので」だったのではないかなと。

岩佐係長 はい。すみません、ありがとうございます。

名取委員 よろしくお願ひできればと思います。私からは以上です。

岩佐係長 ありがとうございます。こちらの部分、「規則に書いていらっしゃるものがかかるので」ということで、修正をさせていただければと思います。ありがとうございました。

楊会長 ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。
石原委員の修正のポイントも教えていただけると助かるんですけれ

ども。

岩佐係長 確認させていただきます。まず、6 ページですね。6 ページの真ん中の3 段落目のところの4 行目ですね。「負圧」という部分ですが、漢字が負けるに圧になっていますけれども、不完全燃焼の不に圧ということで「不圧」への修正ということで、御依頼のほうをいただいています。石原先生、こちらの部分は、これでよろしいでしょうか。

石原委員 結構です。お願いします。

岩佐係長 はい。それと、その1 行下、「基本的に気圧、深いほうの地下水」と続いていますけれども、この「基本的に気圧」のところを「被圧」、被るに圧、ということで修正の依頼をいただいております。

続きまして、7 ページの部分、石原先生の御発言の部分の4 行目、「負担が大きいです」というところが「負担が大きいです」ということで、修正の御依頼をいただいております。

続いていきたいと思えます。14 ページになります。14 ページ、上から2 行目、当初、「国のほうでも国総研なり」ということで、「国総研」というところが、「防災科研」ということで、修正の御依頼をいただいております。

最後、18 ページ、下から2 行目、「粘度系の難透水層」、「粘度系」のところ、度が気温の度ではなくて、土ということで「粘土系」への修正を御依頼いただいていますので、以上の5 点になります。

楊会長 ありがとうございます。ほかには、修正の点はいかがでしょうか。

それでは、もしないようであれば、令和3 年度第2 回会議の会議録については、ただいまの訂正分を反映させたものを承認するというところでよろしいでしょうか。

各委員の同意がいただけましたので、以上で次第2、議事（1）前回議事録について、を終了いたします。

それでは、議事（2）地下水影響工事に係る基準についての審議に当たり、事務局から資料が配付されていますので、説明をお願いいた

します。よろしく申し上げます。

鳴海主事

議事の（２）、地下水影響工事に係る基準について御説明させていただきます。

前回会議でも、地下水影響工事に係る基準について、を議題とさせていただきます。前回は、工事について広く御意見をお伺いさせていただいたところですが、本日は、開発行為に当たって、事業者が環境政策課へ事前協議に来た際に、地下水への影響という観点から、どういった内容を立てるべきかを明確にするため、資料を作成したいと考え、資料２として、本日、御用意させていただきました。

資料の左側に、聞き取り項目が並んでおり、上から地下構造が地下水帯水層に及んでいるか。基礎杭は礫層等を貫通するか。連続地中壁等の構造を採用しているか。地盤改良工法を採用しているか。仮設時に山留工を採用しているか。補助工法を採用しているかになります。

こちらの仮設時の工法になんですけれども、任意仮設となっている場合は、工法が確定した段階で事業者さんから工法を御報告いただくことを想定しております。

これらの項目について聞き取りをし、全ての項目について該当がない場合については、地下水に影響を及ぼすおそれは低いと考え、工事に係る書類の提出は求めないことにします。

本資料は、環境政策課の事務職員が窓口において使用することを想定しており、専門的な内容を省き、可能な限り平易な内容としております。

これらの項目のうち、１つでも該当がございまして、それ以上の聞き取りについて専門的な技術、知識を要する部分が生じるため、事務局での判断は困難になると考えております。

事務局での判断が困難となった場合は、地下水保全会議の議員の皆様様の技術的な助言を賜りたいと考えているところですが、どのような形式でお伺いするかどうかについては、別途御相談させていただければと存じます。

本資料につきましては、土木の観点で項目を挙げさせていただいているところですが、項目の過不足について御意見をいただければ幸い

です。

また、適正管理化学物質などの化学物質の使用といったその他の観点からの確認についても御意見をいただければ幸いです。

専門家である委員の皆様には大変恐縮ではございますが、専門的、技術的な内容に踏み込んだ資料となりますと、環境政策課職員での取扱いが難しくなるため、一部の困難案件については専門家の皆様に個別にお伺いすることを前提とさせていただき、その他、多数の案件を判断できるような内容で御議論いただければ幸いです。

事務局からは以上です。

楊会長

御意見、御質問がありましたらお願いいたします。今回、本日の会議のメインの内容のところですので、少しじっくり時間をかけて、委員の皆様の御意見をいただければと思います。この地下水保全会議としての役割、どういう役割があるべきか、というようなことについても御意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

山中副会長

1個と2個目について見ると、1個目のほうが汎用性が高いといえますか、1個目が「いいえ」だと、2個目は絶対「はい」になり得ないと思うんですけれども、フローチャート自体が何か成立していないといえますか、帯水層に及んでいないにもかかわらず、貫通することは、今、絶対がないので、礫層とか、難透水層を。

これは、難易度とすると、多分、下のほうが高いんですかね。ですから、フローチャートとすると、何かちょっと分かりませんが、もしかすると逆なのかなという気がしたんですが、いかがでしょうか。

すなわち、一番下の補助工法を採用しているというので、「いいえ」だったら次の仮設時に山留工を採用しているかどうかというのを聞いていく形なのではないでしょうか。

最後の一番最後に地下構造が帯水層に及んでいるかどうかを確認するというフローチャートであるべきのような気がするんですけれども、いかがでしょうか。違いますかね。

楊会長

この件に関して、事務局のほうとしては何か説明いただけることは

ありますか。

鳴海主事 フローチャートとしての構成がどうかというところで御意見をいただいたんですけども、聞くべきであろうという項目を順番に列挙、順番にといいますか、項目立てて掲載させていただいているところでございまして、今、御指摘いただいたような順序の在り方ですとか、こういう場合は、次にこういう話に発展するんじゃないかというような技術的な順序立てというのはできていないような形になっておりますので、その辺り、今、御指摘いただいた点につきましても、ほかの委員の皆様から御意見をいただいて、順番を整理するなどの対応を取っていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

楊会長 了解しました。ほかの委員の皆さんは、この件に関してはいかがでしょうか。私もこのあたりは全く素人なので、あまり意見を出せないんですけども。

石原委員 ちょっと考え方にもよるかとは思いますが、地下構造というのは建物、例えば地下1階、2階とかという形で考えますと、基礎杭とかというのは、その下に小金井市さんの新しい新庁舎ではないですけども、支持層まで入るということで、かなり深い場合もあるんで、山中先生がおっしゃっていることはそのとおりだと思います。と同時に、地下構造というのは、建物本体という形で理解すれば、基礎杭のほうはかなり深くまで入るということは、ケースとしては十分あり得るかと思っております。

以上です。

楊会長 ありがとうございます。ほかの委員の皆様は、この件に関していかがでしょうか。

徳永委員 よろしいでしょうか。

楊会長 はい。お願いいたします。

徳永委員 今、山中先生がおっしゃられたところは、何を見ているかということが、地下の地質の構造なのか、それとも工法なのかというのが、どういう順番で評価しますかということが直列になっているので、ちょっと見にくいということではないかなという気がするんですね。

最初の2つは、地下の構造がどうなっていて、それに対して構造がどういう取合いになりますかという話がかかれていて、後半の4つぐらいは、どういう工法をとりますかという話になっているので、何かちょっとそこをうまく整理して、どの部分が小金井市さんとして心配をされるのかということに応じてはい、いいえというのを、並列で物事を見ておかれてもいいのかなというような気がしたのですが。

ただ、一方で、地下の構造がどうなっているかということと、工法をどう取りますかというのは組み合わせになってしまうので、そこを先ほど鳴海さんがおっしゃられたように、技術的な判断が難しい中でやるとすれば、少し多めに事務局での判断困難という方向に最初のうちははじいてしまって、何回か整理していく中で、この部分は事務的に対応できるというような、ある種の行政のお立場としての確信を持たれた部分は、これを更新していくという形で、少しずつスムーズにやっていけるというようなフローチャートにされるという考え方もあるかなという気はいたしました。

ただ、これ、繰り返しで恐縮ですが、見ているものがかなり違うものを並べているというところがあるので、その整理をすると大分見やすくなるかなというのが、山中先生がおっしゃられた部分のコメントに対する私の考え方です。

楊会長 ありがとうございます。じゃあ、よろしくお願いします。

名取委員 ちょっと基本的な知識がちょっと不足していて順番がどうか、いいかというのは私からちょっとコメントは難しいんですが、フローチャートという意味で言えば、これはかなりシンプルで「はい」と「いいえ」で、全て「はい」の場合は、事務局の判断が困難になるので、フ

ローチャートとしては1つにまとめられる気がします。次のいずれかに該当する場合、「はい」であれば事務局判断。「いいえ」であれば全部市のほうで低いと考えられるになるので。

仮設時に山留工を採用するだけ、ちょっともう1個分岐があるので、そこだけ少し工夫が必要ですが、基本的には、この1、2、3、4、5か6をいずれかに該当する場合は事務局判断困難になります。いずれにも該当しない場合だけ低いと考えられるになると、フローチャートとしては、そういう整理が分かりやすいんじゃないかなと思いました。

以上です。

楊会長 ありがとうございます。山中副会長。

山中副会長 フローチャートの順番という形で言ってしまったんですけども、フローチャートの順番もそうなんですが、少なくとも1番と2番は入れ替えたほうが良いという。

というのは、1番が成立すれば、もう2番は、あってもなくてもどちらでも。1個目、これが少なくとも逆じゃないと、フローチャートの意味が1番目と2番目で成立しないんじゃないかと思うんですけども。

というのは、2番目のほうが範囲が大きいので、及んでいる可能性があれば、もう2番目は必ず「はい」になりますので、ちょっとこの順番がおかしいかなと。

徳永委員 山中先生、僕の理解は、礫層に構造物を乗っているやつというのがあって、杭を打たずにべたで乗っているようなやつだと、1番ははいだが、2番はいいえというのがあるんじゃないかという気がするんですけども。

山中副会長 1番が「はい」になってしまえば、もう右に行きますので。

徳永委員 1番が「いいえ」で、2番が「はい」もあるんじゃないかな。地下

構造の定義なんですけれども、先ほどの石原さんがおっしゃったように、地下、建物として供用する部分を地下構造と言うとすると、そいつを礫層に当てずに、杭は深く打ってしまうというような……。

山中副会長　　そういうケースもあり得るということですね。

徳永委員　　それはだから、地下構造をどう定義するかということによるような気がするのですが、そこは明確にしておくことはいいかなという気はいたしました。

山中副会長　　地下構造というのは、私は杭も地下構造の一部だというふうに認識していましたので、そうじゃないケースがあるということですかね。

徳永委員　　そういうことかなと思いました。

山中副会長　　分かりました。ありがとうございます。そうなのであれば、このようなフローチャートでも成立するのかなと思いました。2番目が結局フローチャートがあっても生きないんじゃないかなという意見でした。よろしくをお願いします。

楊会長　　ありがとうございます。じゃあ、この件に関しては、よろしいでしょうか。

事務局の方としても、いかがでしょうか。何かはつきりさせておく点がありますか。

鳴海主事　　今、このお示しした資料に対して、項目に関しての御意見というよりは、見せ方といいますか、チャートとして成立しているのかどうかというところを主に御意見いただいたかなというふうに思っております。

ちょっと構造の話と、工法の話が混ざっているという徳永委員からの御指摘もありましたし、名取委員のほうからもこういった形でなくても1つが該当すれば成立するのではというような御意見をいただき

ましたので、ちょっと項目はこのまま生かして、あまり順番が影響しないような形といいますか、1つチェックしたらもう該当するというか、事務局で判断できませんというような形の見せ方をちょっと変更しようかなというふうに、今、委員の皆様から御意見をいただいたところで考えたところでございますので、そのような形でよろしかったでしょうか。ちょっとその点、確認させていただければと思います。

以上です。

徳永委員 発言してよろしいでしょうか。

楊会長 はい。

徳永委員 今、鳴海さんがおっしゃられた部分は、うまく整理していただければと思うんですけども、一つ僕、確認しておきたいのは、上から2番目の基礎杭は礫層または難透水層を貫通すると書いているんですが、これは、小金井市さんの地下の地質の分布みたいなものを見たときに、礫層というのは、武蔵野礫層とよく言われているようなものを見る。難透水層というのは、何をターゲットにしているかというのは明確なんでしょうか。

それから、崖を降りたところというのは、何かちょっと違うとかというようにあるんですけどか。何かこういう書き方をすることによって、実は分かりにくくしているということはないかなという印象を持ったんですけども、そこは大丈夫ですか。

鳴海主事 地質の分析が市としてできていないので、特段この層にというイメージは、現時点では持っていないです。

ボーリング調査を事業者さんがされるとしますので、それを見させていただくようなイメージで考えていたところです。

以上です。

徳永委員 それで御判断ができればいいんですけども、例えば一つ思ったのは、小金井市さんの地下の代表的な地下の地質の分布はこんなふうに

なっていますというような模式的なイメージを1枚共有しておかれて、それに対してこの礫層に当たるということは地下水として考えないといけない。この難透水層を触るとということになるとすると、小金井市さんとしては少し丁寧に考えないといけないというふうに取り扱っているんですということを、行政のお立場の方も理解し、工事をする人も、そういうふうに行政の方々が考えているんだなということを共有するという意味で、もし小金井市さんの地下の代表的な断面みたいなものがつくれるのであれば、それをこのフローチャートと併せてお持ちになっておくと、非常に様々な使い方ができていいかなというふうに思います。これはコメントですが。

楊会長 ありがとうございます。鳴海さん、いかがでしょうか。

鳴海主事 小金井市としては、今まで開発事業者さんからボーリングのデータを情報提供という形でいただいておりますので、それらを活用して、今、おっしゃったような代表的な断面、小金井市の地下層という形で、持てるかどうか検討させていただきたいと思います。

 以上です。

楊会長 了解しました。じゃあ、その辺の検討をよろしく願います。

名取委員 ちょっとまた別の観点からなんですが、先ほど化学物質の関係からいかがですかという事務局からの御質問がありましたので、ちょっと考えてみたんですが、化学物質の適正管理制度、そちらの制度自体は、工場、指定作業所を対象にしているので、今回の対象とはなかなか重なりにくいのかなという気がしますので、全く重ならないわけじゃないと思いますけれども、重なる部分は少なそうだなという気がしますので、そこと直接絡めるのは難しそうだなという気がしました。

 一方で、化学的な観点で気になるのは、土壤汚染が確認されているような土地ですね。特に、上部に土壤汚染がある場合で、杭などを打つと、土壤汚染、地下水汚染を下に落としてしまうというようナリスクがあるので、そこは注意が必要だなと思っているんですが、ただ、

結局、土木的に基礎杭が貫通するとかがなければ大丈夫なので、具体的な条件としては挙げにくいんですね。

なので、土壌汚染、地下水汚染が確認されていれば注意はしてほしいんですが、今回のこれの条件に載せてもなかなかうまくいかないなという、感想でしかないですが。

今回の基準に当てはまったとしても、書類の提出を求めるだけですよ。なので、その助言として工法を変えてくださいという話はあるのかもしれないですけども、ちょっとすみません、意見がまとまらなくて申し訳ないんですが、土壌汚染、地下水汚染については確認はしていただきたいなという気持ちはありますが、ちょっと条件としてどう絡めたらいいかがちょっとまだ整理できていないです。

一旦、以上でございます。

楊会長 鳴海さんから何かありますか。

鳴海主事 御意見ありがとうございます。土壌汚染があると明確に分かっている地点は、杭を深く打つとそれが流れてしまう、汚染が広がってしまうおそれがあるという御指摘、それに対してどういうフォローができるのかというところが、またこの資料に落とし込むのが、検討するのが必要なのかなというふうに理解しておりますが、そのような形でよろしいでしょうか。

名取委員 そうです。土壌汚染が確認されているということで、土壌汚染対策法なり、環境確保条例なりで確認されている土地は、そちらの土壌汚染の規制のほうである程度カバーができていますので、そこは必ず確認はしてほしいんですけども、この場合、そういう土壌汚染関係の法・条例にかからないものも一部含まれてくるので、そういったところも土壌汚染の有無は確認していただいて、当然、落ちないような方法でやっていただくように御助言いただければありがたいなと思うところです。

楊会長 ありがとうございます。それでは、ほかの件について御意見いただ

石原委員　　すみません。今の徳永先生のお話でちょっとだけ思いついたんですが、参考にお話しさせていただくと、小金井市さん、市民の皆さんのほうで井戸の観測をずっとされていたと思うんですけども、その中で非常に、基本的には被圧の浅層井戸だと思うんですが、その中でも非常に浅い井戸ですとか、周りに比べて深さが違うようなところは、今、徳永先生が言われている宙水に相当するような可能性もあるかと思うので、そういうところの資料も活用できるかというふうに考えました。参考なんですけれども、よろしくをお願いします。

楊会長　　この件は、よろしいでしょうか。徳永委員、ほかに何かありますか。

徳永委員　　特に私からは以上でございます。ありがとうございました。

楊会長　　はい。了解しました。ほかにこの件に関して御意見はありますでしょうか。

もしないようであれば、以上で議事2を終了いたします。

それでは、議事2はこれで終了ですが、続いて次第3、その他として、事務局、委員問わず何かございますでしょうか。

岩佐係長　　よろしいでしょうか。

ありがとうございます。今期の地下水保全会議の委員の皆様の任期が今年度の3月31日をもちまして満了という形になります。

徳永委員、石原委員、山中副会長につきましては、来期におきましても継続の御内諾をいただいております、名取委員につきましては、東京都の人事異動の関係もまたありますので、流動的な状況です。

楊会長につきましては、今期で御勇退されるということになります。このメンバーで会議は最後となりますので、恐れ入りますけれども、お一方ずつ今期2年間の地下水保全会議の感想ですとか、今後の地下水保全会議に望まれる方向性などございましたら、今後の参考にさせていただければと思いますので、お1人3分程度で御意見等を賜ればと存じますので、よろしくお願ひいたします。

そうしましたら、最初、楊会長のほうからお願いしてよろしいでし

ようか。お願いします。

楊会長

分かりました。会長の任務を務めさせていただきましたけれども、私は、この会議で議題になっているメインの水文学とか、土木とかに関しては、どちらかというところかなり専門外で、なかなか理解が及ばない状況で、皆さん、この会議の運営にとってあまりお役に立てなかったような気もいたします。この辺、申し訳ないなと思っております。

地下水ということに関しては、私も少なからず関心のあるテーマで、授業なんかでも取り上げたり、小金井市ではこんなことをやって努力していますよとかいうことを授業でも話したりはしていたので、関心のあるところではあって、全国的にも地下水は非常に関心は高く、努力されているということに関しては敬意を払ってございまして、今後ともこの全国的に有名な小金井の地下水というものをぜひ保全を進めて、推進していただけたらと思っております。

なかなか今回の杭をどこまで打つかとかという辺りなんかは、一筋縄ではいかない、ちょっと難しい面もあるなとは思いますが、ぜひ来年度以降も委員の皆様のお知恵をお借りしながら、合理的な内容で進めていただければと思います。

私として、最後に、もう一つ申し上げたいと思うのは、少し長めの視野でこういった問題に関しては考えていただけたらと思います。どうということかといいますと、例えば一番関心のあるのは、地下水がどう変化してきているのか、そういう経時的な変化だと思うんですね。そういうのを實際上、もう増えているのか、減っているのか、そういうようなデータも蓄積して行って、それを可視化できるようにすると随分見通しもよくなると思います。

それから、将来どういうふうにしていきたいのかというようなことに関しても、ぜひビジョンというか、そういう観点も持っていただくと、非常に有益なのではないかなと考えておりますので、ちょっと口幅ったい言い方になりましたけれども、そんなことを考えておりました。

私からは以上ということにさせていただきます。

岩佐係長

楊会長、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、徳永委員、お願いいたします。

徳永委員

2年間、大変お世話になりました。楊先生には、会をうまくまとめていただいて、運営していただきましたことを御礼申し上げます。

私自身も地下水学を研究の中心に置いている人間として、やっぱり基礎自治体というお立場で小金井市さんが様々な努力をされているということに関して常に敬意を払ってまいりました。

やはり地域の方々に最も近い自治体は基礎自治体であって、そういうところが地下水という自分たちの足元の資源、環境について丁寧に見るということを通じて続けておられるということは、これは本当に素晴らしいことだというふうに思います。

先ほど楊先生もございましたが、これが時間方向にもちゃんと継続して、世代をまたいで大事な環境、自分たちの環境だという意識を持っていくというようなところに進んでいくということ、これは僕、何回か教育というのも大事だと思いますみたいなことを発言させていただきましたが、今までやってこられていることを、その地域の方々とより強くつないでいくというようなことも意識した活動が次期できていくと、非常によいかなというところに大きな期待を持っています。

そういうところが、実は、私たちの次の年代の人たちが同じように物を考えていくということが自然にできていくということにつながっていくのではないかなというふうなことがあって、それができるのがやっぱり基礎自治体さんではないかなというふうに思うわけです。

そういう意味で、国がやるべきことは国がやる中、やっぱり小金井市さんがやられていることということ、丁寧につなげていくということで、来期も参画させていただくということでございますので、そういうような観点もまた一緒に共有して行って、一緒に考えるということができればいいかなというふうに思います。

いずれにせよ、この2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

岩佐係長

徳永先生、どうもありがとうございました。それでは、続きまして、

石原委員、よろしくお願いいたします。

石原委員 楊先生、本当にいろいろお世話になりましてありがとうございます。いろいろ分野が違うところで大変勉強になる部分がありまして、本当にありがとうございます。

それから、また私のことになりますけれども、本来、このような席に末席を汚すこと自身、私自身いろいろ考えるところがございまして、本当ならば交代するべきといった気持ちは最初から持っております。

ただ、いろいろな中で、現在、どちらかというところと研究とか、先生方と同じ土俵というよりも、私自身のバックボーンとしての技術屋といえますか、図面が理解できる、ですとか、工法がよく分かるですとか、そういう視点からのフォローもさせていただけるのであれば、それはそれで私の役割として少しはお役に立てるんじゃないかというふうに考えて、継続することになった次第です。

皆様にいろいろ御迷惑をかけることもあるかと思うんですけれども、引き続き御指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

以上です。

岩佐係長 石原先生、どうもありがとうございました。続きまして、山中副会長、よろしくお願いいたします。

山中副会長 楊先生、私よりも多分長い間、委員を務めて、非常に長い間お疲れさまでございました。一度、楊先生の代わりに司会を務めさせていただいたことがあるんですけれども、なかなか私なんかうまくすることができずに、楊先生のような形でうまくなかなかまとめるのは大変だなというふうに日々感じていた次第です。

楊先生のお話の中にもありましたし、徳永先生のお話の中にもありましたけれども、小金井市として、やっぱり継続的に長く地下水を保全していくということが、すごく大事なことで私も日々感じています。

私自身は、隣の市に住んでいますので、非常に小金井市は身近に感じていまして、研究でも国分寺崖線湧水というのが、私自身すごく関

心を持っている、どういう流出過程で出ているかと、すごく関心を持っているところで、こういった水環境を維持していくというのはすごく大事ですので、教育、恐らく小金井市さん自身も雨水浸透ますの設置ですとか、これまでのお話の中でも出てまいりましたけれども、そういったことで保全をしていきたいというお考えもあり、継続的にというお考えもあると思います。

その中で、多分、小学生とか、中学生とか、あとは地元の方にいろいろこういった保全が大事だという教育をする場面が必要になってくると思うんですけれども、先々のことを考えますと、できる範囲で、もしそういうふうなニーズがありましたら、当然できる範囲ですけれども、そういった側面で御協力させていただきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

2年間、どうもありがとうございました。

岩佐係長

山中副会長、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、最後に名取委員、よろしく願いいたします。

名取委員

楊先生、これまでの会議のおまとめありがとうございました。私自身も専門は土木というよりは、土木地質ではなくて化学系で土壤汚染とか地下水汚染が経験が長いものですので、土木系の部分での貢献は限定的だったかなと思っていますが、科学の視点とか、行政的な視点で少しでも貢献できていたら光栄だなと思っています。

ほかの先生方の非常に見識高い御意見を伺いまして、私自身も大変勉強になりました。ほかの会議と比べましても非常に専門的でかなり建設的な議論ができている会議だなというふう感じておりまして、正直に言いまして、参加していて非常に面白い会議だったなというふうに私は思っております。ありがとうございました。

地下水保全の取組に関して、ほかの先生方も申し上げていましたけれども、小金井市さんは、ほかの自治体に比べて熱心に取り組んでくださっていますので、引き続きほかの自治体をリードしていただきたいなと思っていますし、東京都としてもぜひ一緒にいろいろな取組

をさせていただきたいなというふうに思っております。

来期につきましては、先ほど御紹介がありましたけれども、まだ私自身、人事異動がどうなるか分からないものですから保留とさせていただきますが、引き続き人事異動なくここにいられるのであれば、微力ながらもお力になれるかなというふうには思っております。

ほかの先生方におかれましても、これを御縁にぜひ、既に徳永委員については御協力いただいておりますけれども、東京都のほうの会議などでも、ぜひ御助言、御指導いただけたらというふうに思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

以上でございます。

岩佐係長

名取委員、どうもありがとうございました。皆様、どうもありがとうございました。

本当に、今、御意見いただきました内容につきましては、引き続き、今後の会議運営のほうに参考にさせていただければと思います。どうもありがとうございました。

そうしましたら、環境政策課長の山口のほうからも一言、御挨拶をさせていただきます。よろしく願いいたします。

山口課長

本日もお忙しいところ、またコロナ禍の中、会議への御参加、誠にありがとうございました。

今期は、本日の会議をもちまして終了となりますことから、本来であれば環境部長から御挨拶させていただくべきところでございますけれども、他の公務の関係で不在となりまして、一言から、私から御礼の御挨拶差し上げたいと思います。

今期は、現在も猛威を振るってございます新型コロナウイルス感染症感染拡大防止措置に伴う様々な制限下でございましたけれども、委員の皆様の御理解、御協力の下、本会議は予定どおり開催することができました。

改定時期を迎えておりました地下水及び湧水の保全・利用に係る計画は、昨年度、御協議、御審議いただいた結果、令和3年3月に策定を完了いたしまして、滞りなく同年4月1日から新たな計画の下、取

組を開始することができてございます。

本会議において、本市の地下水及び湧水への御意見、アドバイスを専門家の先生方からいただけることは、私どもも大変心強く、また光栄に思っております。いただいた御意見をどのように環境行政に生かしていくかは非常に重要なことであると考えております。

今期につきましては、本日の会議で任期満了となりますが、かないますれば、来期以降も引き続き御意見、御指導をいただければ幸いです。

また、今期で御退任される楊会長におかれましては、3期6年にわたり、また、会長職として一方ならぬ御尽力をいただきました。心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

本来であれば皆様にお会いしてお礼を申し上げるところですけども、このような形になってしまい、誠に申し訳ございません。心より御礼申し上げますとともに、今後ともどうぞよろしく願いたいします。ありがとうございました。

岩佐係長

ありがとうございました。それでは、最後に、事務局から事務連絡でございます。

来期につきましても、御継続の御連絡をいただいております委員の皆様につきましては、皆様の各所属先の御担当者様に推薦書等のお手続を進めていただいている段階でございます。

こちらの手続が終了いたしましたら、皆様には正式に承諾書の御提出を御依頼させていただく形になりますので、よろしく願いたいします。

次回の日程は、4月以降の開催となりますので、後日、委員の皆様と日程調整の上、改めて事務局より開催日時のお知らせをさせていただこうと思っておりますので、よろしく願いたいします。

以上でございます。

楊会長

事務局の説明が終わりました。ほかに御質問等はございませんでしょうか。

特になければ、以上をもちまして本日の議題は全て終了いたしました。

た。

本日は、これをもって令和3年度第3回小金井市地下水保全会議を閉会いたします。お疲れさまでした。

— 了 —